



どんな事を聞こうかな？
オーストラリアの児童と英語で交流



言葉や絵から想像力を働かせます。



英語かるた、CDから流れる英語を聞いてたくさん取りました。
かるたの英語は、もう一人でも言えます。



わんぱく山の自然素材を使って、大文字アルファベット作品を作りました。



～かにかっこ英語プログラム～

話した
聴いた
伝わった

子どもの頃から育てたいコミュニケーション能力。
英語を通じてコミュニケーション能力を高める取り組みをご存じですか。
今回は南帷子小学校で取り組んでいる「かにかっこ英語プログラム」を紹介します。

★1 かにかっこ英語プログラムって何だろう

積極的に「コミュニケーションを図る意欲を高める教育の一環として、今年度から始まった小学校英語「コミュニケーション」研究事業が「かにかっこ英語プログラム」研究です。

南帷子小学校を指定校に始まったこの取り組みは、子ども英語教育の専門家・清水万里子さんがアドバイザーとなり、児童が英語を聞き、話すことができる環境をつくり、英語を通じて「コミュニケーション」能力を高めていくというものです。

★2 ポイント

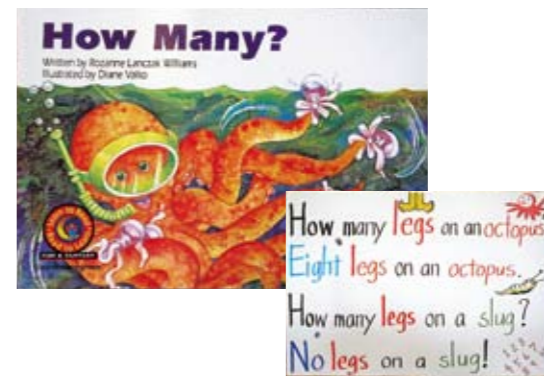
「英語が話せるようになること」だけが目的ではなく、児童が主体的に「コミュニケーション」を図ろうとする力を高めることが重要な目的になります。

- コミュニケーションのポイント
- 相手と目を合わせる
- 身振りや手振りを交える
- 笑顔で、表情豊かに「コミュニケーション」ができる
- 相手の話をよく聞く
- 自分の気持ちを表現する
- 自分の能力を英語というツールを使うことによって、高めてほしいと考えています。

★3 どなたも楽しんでいるの？

「音声付英語絵本を使った読み聞かせ」英語だけで絵本の話を楽しみます。ストーリーを楽しみながら、英語に慣れる取り組みです。

絵から英語の意味が想像できるように楽しい絵本を選びました。



絵本で繰り返し出てくるフレーズからパネルを作り、楽しく英語が身に付くよう工夫しています。

- 絵本は、授業や朝の時間に使っています。
- 教師が読み聞かせて、話の内容を想像させます
- 絵本CDを使い、英語の発音をまねて読みます
- 英語のリズムをまねて読みます
- 出てきた英語を使って会話をします
- このような活動を続けて、だんだん英語に慣れていきます。

英語サマースクール

市のALT(外国語指導助手)や海外の児童と英語で交流を深める取り組みです。サマースクールの間、児童は英語だけで過ごします。

体を動かすゲームやグループでの旗づくり、ALTから出身国の紹介を受けたり、クイズに答えたりしました。またインターネット電話サービスを使用して、オーストラリアの小学校と交流しました。



英語でクイズ!

英語かるた

児童がよく使う表現、言葉を選び、絵札、文字札、音声CDによるオリジナルかるたを作成します。CDはネイティブによる音声録音されており、リズムよく遊び感覚でフレーズを覚えることができます。

かるたのフレーズは自然に身に付くように、旅行会話などではなく、「おなかですいた」「どうしたの?」といった日常的に学校で使うようなものを見、教師が選び、かるたの絵も児童が描きました。

英語アート

文字認識を育成するため、南帷子小の里山「わんぱく山」の木の実、葉、枝など自然素材を使ったアルファベット文字工作や、文字を使ったアート作品を作ります。

低、中学年はどんぐり、木の枝、植物のツルなどで大文字アルファベット作品を作り、5年生は日本の伝統模様を背景にアルファベットを、6年生は各アルファベットで始まる単語を探してデザインしています。

★4 楽しいが力に

英語を「勉強する」と考えるのではなく、英語を「楽しむ」として取り組むことが目的になっていきます。

かにかっこ英語プログラムでは、「楽しみながら」遊び感覚を持って「活動すること」を大切に取り組んでいます。

児童が楽しいと感じることが、英語に対する抵抗感をなくす、英語を聞く耳を育てるといった、児童の英語に取り組む土台づくりとなります。その土台は、児童の「コミュニケーション能力」の育成につながっていきます。

取り組みを通じて「生き生きと英語を使う児童が見られるようになりまし。この取り組みを、ほかの小学校にも広めていきたいと考えています。

問合先 学校教育課